

「栃木県民球団に村田さんがやってきた」

2018年5月5日（土祝） ルートインBCリーグ 栃木ゴールデンブレースVS新潟

アルビレックスBC

13:00試合開始 天候 晴れ 観衆1703名



↑ 栃木市営球場

↑ ホームタウンのJR小山駅

↑ 球場内のポスター

1、BCリーグ2年目の栃木ゴールデンブレース

栃木ゴールデンブレース（以下 栃木GB）はプロ野球独立リーグであるベースチャレンジリーグ（以下BCリーグ）のひとつで、昨シーズンから参入した最も新しい球団です。

しかし、最もホットな話題は、3月に昨年オフに巨人を自由契約になった村田修一選手が入団し、スポーツ紙の一面を飾るほど脚光を浴び、ホーム開幕戦では4162名もの観衆を集めました。

2、ホームタウン栃木市と栃木市営球場

栃木GBのホームタウンは栃木県全域ですが、小山市が中心で今シーズンはホームゲーム34試合中23試合が小山で開催されるだけでなく、練習場や球団事務所も置かれています。

小山市は、東京駅からJR宇都宮線で1時間10分、栃木県南部の中心都市で首都圏のベッドタウンとして発展しています。JR小山駅のコンコースには「栃木市をホームタウンとする栃木ゴールデンブレース 村田修一選手 飯原誉士選手 応援よろしくお願いたします」という横断幕が出ていました。（写真中央）また小山市役所にも同じような垂幕が出ていました。これならば多くの方が目につきます。ちなみに飯原選手は昨シーズンまでヤクルト在籍で小山市出身です。

今日のホームゲームは小山市の隣町・栃木市での開催です。栃木市は江戸時代に「蔵の街」として賑わい、埼玉県の川越が少し小さくなったような歴史のある街です。実は2011年秋に同じ総合運動公園内にある当時JFL（現・関東1部）の栃木ウーヴァのホームスタジアムで活動させていただいたことがあります。栃木球場は高校野球の県予選でも使われていますが、かなり、

古く、スコアボードも全て手動でお世辞にも立派とはいえません。今シーズンは他に2試合ホームで使用予定です。

3、あのスター選手には「さん」付けで

試合開始3時間前の朝10時集合し、ミーティング開始です。球団社員の方、親会社（人材派遣業）から応援の方、そしてピンク色のTシャツを着た4名のボランティアの計15名です。ボランティアの主な業務は「グッズ売り場&当日券販売のテントブース」「もぎり、子ども対象のTシャツ配布」「ファールボールの笛吹き」に分かれているようで、球団社員が試合運営全般を管轄していて、ボランティアが補助をしているといった様子でした。

早速、グッズ売り場には列ができていて、お目当ては、やはり村田選手のサイン入りユニフォーム、サインボールなどでした。お客様からは「村田さんのグッズはまだありますか」と質問攻めにありました。選手に「さん」付けをするのは余り聞いたことがなく、地元ファンの尊敬のまなざしを感じました。その後入場ゲートでの整理に当たりました。入場ゲートは1カ所でファンクラブ先行入場の方も一般入場の方も同じ列で並ばれていて、お客様から指摘があり、通りかかった社長に報告し、社長自ら「恐れ入りますが、ファンクラブの方は右側、一般の方は左側に並んでください」とアナウンスしていただき、その後私一人待機列にいましたが、混乱なく開門時間を迎えることができました。開門後の列が途切れるとゲート隣で、小学生以下の来場者を対象に子どもの日のユニフォームプレゼントがあり、7回までそのブースで配布をしていました。ただし、サイズが大人用のSとMしかなく、その説明を一人一人にしなければなりません。その後在庫数を数え（当日配布数約250枚）テントブースに運びました。

7回からはグッズ売り場で呼び込み、試合終了後は幟旗の回収、テントをたたみ、備品（グッズ商品、幟旗、ポスター、テントなど）をトラックに積み込み、終礼後、17時40分に解散となりました。

4、翌週のNPBとの対戦を前に

終礼では球団社長が「BCリーグの理念になっている子どもに夢を与えるためにユニフォームプレゼントを実施した。子どもの喜んでいる姿を見て、地元球団としてよかった。来年は（プレゼントの）質が落ちたと言われたいようにしたい」と挨拶されていました。さらに「今日は急に決まったイベントが多く、伝達が充分でなかったことを反省し、（今日の試合で皆さんの）経験値が上がったので、来週末のNPB（日本野球機構＝セパ12球団）との試合運営を頑張っていきましょう」と話を結んでおりました。

今日は「NPB」という言葉を多くの方から耳にしましたが、ほとんどの方が「プロ野球＝セパ12球団」のことを指していると思いますが、BCリーグ関係者は使い分けているようです。来週末のNPB巨人3軍との試合では、村田選手が古巣との対戦で、非常に盛り上がり、来場者も多くなることが予想され、そのための準備がこれから始まるといった緊張感のようなものを感じました。

5、末永く愛される球団に

今回の活動は一人で配置につく時間が長く、球団社員およびボランティアの皆さんとお話する時間は少なかったです。終礼時には10名前後のボランティアの方が活動されていました。大学生風の若い方が多く、トラックの搬出では大活躍でした。お客様と触れる時間は多く、NPBの観戦が「ハレの日のおでかけ」ならば、BCリーグは「高校野球の県予選を見に行く」気軽さで観戦に来ているといった印象でした。ジャージ姿のご年配の男性が一人で観戦に来ている方が多かった一方、20代の方の割合が少し低いかなと思いました。また、村田選手目当てのNPB時代からのファンというのはベ이스ターズ時代のユニフォーム着た方を2名見かけただけで、来場者がBCリーグでダントツの1位になっているのは「(ホームタウンの) 栃木に入団した村田選手を応援に来た」というのが、かなり影響されているのではないかと感じました。

試合運営の様子は3年前に訪れた当時1年目の武蔵ヒートベアーズに似ていました。今後、村田選手はNPBに復帰される道もあるようで、退団する可能性もあるかもしれません。仮にそうであったとしても、村田選手がきっかけで、栃木GBがこれからも地域に地道に根付く球団になればと思い、鯉のぼりがはためく栃木市を跡にしました。皆さんありがとうございました。

参考1、(BCリーグHPには下記の理念が掲載されています)

BCリーグ憲章には選手・監督・コーチ・フロント全員が「地域と地域の子供たちのために」を共有し憲章の理念を追求します。

参考2、5月11日(金)～13日(日)のNPB巨人3軍との試合は1574名、3145名、2306名の来場者 さらに12日の試合で、地元紙スポーツ欄には「お待たせ 村田1号」の見出しで大きく掲載」されていました。